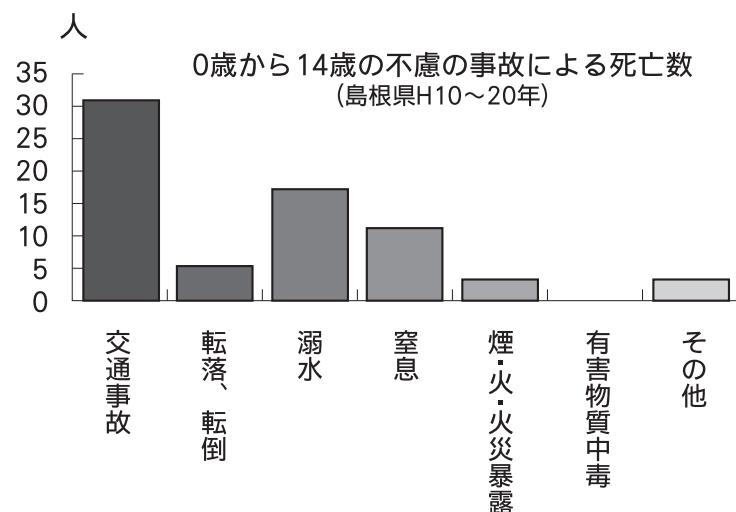


子どもを事故から守りましょう！ 子どもの死亡は不慮の事故が1位

不慮の事故は子ども全体の死亡原因の
3割程度を占めます。



体験談：外傷や打撲・骨折・飛び出しなど編

- ◆2歳の子どもの化粧箱から盾カット用のカミソリを出し、手の指を切り、3針縫いました。

対策 ➡ 化粧箱を高いところに置く。鍵をかけて開かない場所にしまっておくなど工夫しましょう。

- ◆5歳の子どもの、公園のブランコに乗っている友だちを後ろから押してこいであげようとしたが、ブランコの勢いが強すぎて転び、足の骨にひびがはいりました。

対策 ➡ ブランコの後ろは危険であることを教えましょう。



*歩行中の子どもの事故の原因は6割が飛び出し！

対策 ➡ 歩く時は子どもの手を握って歩道を通り、大人が車道側を歩きましょう。

ヒヤッとした体験から事故予防の工夫を！

体験談：窒息・溺れ編

- ◆4歳の子どものと一緒に入浴中、母親が洗髪中に目を離したすきに浴槽に落ちた。応急処置をして元気がなったので救急車を呼びませんでした。

対策 ➡ 入浴中には、浴槽の上に上がらないように、常に目で見えるか、子どもの名前を呼んで、今はじっとして…等声をかけましょう。

対策 ➡ 夏場の家庭用ビニールプールでは、たとえ兄弟がいても、子どもだけで、遊ばせることのないよう、必ず大人がそばに付き添いましょう。



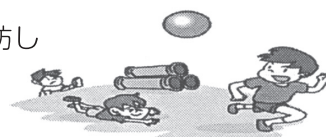
体験談：遊び場所を点検しよう編

- ◆自然の木で日陰にもなる広場は、秋はドングリがたくさん落ちて親子には喜ばれます。しかし、風が強い荒天が続いたあとに外遊びしていたら、離れたところで直径25cm、長さが90cmほどの二股になった枝が落ちるのを目撃しました。

対策 ➡ 枯枝や古い枝は切り、週1回程度は点検するようにしましょう。

- ◆庭の木製のいすを手で触れ、とげが刺さりました。

対策 ➡ いすに覆いをして予防しましょう。



★1歳前から条件反射的に安全に対する習慣を少しずつ身につけさせましょう。
★1・2歳の子は、大人のまねをしますので、安全教育を大人が示しましょう。
もし、危険な事をしたらその時に注意しましょう。時間がたつと忘れます。

体験談：転落・転倒は 思いがけないところで起きる編

- ◆階段からの転落
4ヶ月の乳児でチャイルドシートの取り外しができるものに児を寝かせ、手で持って階段を下りる途中に大人がつまずき、シートから児が転落しました(2～3段)。医師に診てもらったが大丈夫でした。

- ◆買い物カートにすがって乗っていたらカートごと転倒し、子どもは、吐いて意識がもうろうとし、軽い脳しんとうと診断されました。

対策 ➡ チャイルドシート・ベビーカー、買い物カート等は正しく使用し、ベルトは必ず装着しましょう。



体験談：やけど・誤飲編

- ◆大人が、カップラーメンに熱湯をいれた直後に、3歳の子どものが、カップをひっくり返し、足と手の指をやけどをし、あとが残りました。

対策 ➡ テーブルのすみには熱いものを置かないようにする、また、テーブルクロス等は使わないか動かない工夫をしましょう。

*ライターに要注意！

5歳未満の子どもがライターで火遊びした場合、8割以上という高い割合で死傷者がでています。
小児の誤飲事故が一番多いのは「たばこ」です。



対策 ➡ 子どもの手の届くところにライター等を置かない・触らせない・遊ばせない・子どもが操作しにくいライターを購入する・理解できる年齢になったら子どもに火の怖さを教える…等が必要です。

